

2023年10月30日

国際経営学部国際経営学科4年

飯塚憧斗

はじめに

本奨学金の受給にあたり国際経営学部の教授方、事務室の方々、すべての方に感謝いたします。

私は、2022年8月から2023年5月の2学期間をアメリカ合衆国ハワイ州の University of Hawaii at Manoa で交換留学生として学ぶ機会を頂きました。この報告書ではハワイ大学マノア校での2学期間を、留学前、留学中、留学統括の3つに分けて書いていきます。

留学前

私が University of Hawaii at Manoa を交換留学先として選択した主な理由は3つあり、それらが留学の目標でもあるので、紹介させていただきます。

一つ目が環境学、サステナビリティをその分野の世界最先端をいく欧米のどこかで学びたいと思っていたからです。その中で、2045年までに100%にするという政策を掲げるハワイ州に位置する University of Hawaii at Manoa を見つけました。またハワイ州は海に囲まれ、大部分を自然が占めるなど立地的にも環境やサステナビリティ関連の学問が発達しています。私は、同校で環境・サステナビリティに関わる授業を学びたいと考えました。

その上で二つ目として、上述のような持続可能な社会を目指すハワイ州における街づくりを経営学の側面から調査したかったからです。その為にも環境・サステナビリティ以外にビジネス学部でマーケティングや経営学、不動産等の授業を体系的に学ぶ必要があると考えました。そして、それらを包括するビジネス学部 Shidler college の学術的な評価も高かったため、ハワイ大学マノア校に決めました。

三つ目は、ハワイが好きだからです。留学以前に訪れた事がありましたが、ビーチにいただけでいい意味ですべてを忘れられるそんな地だと感じました。留学にあたり、ホームシックや

語学、住環境によって悩むことが少なからずあると予想していたので、それらを忘れてリセットできる一番の環境がハワイだと思いました。



キャンパス内で行われた新入生歓迎の様子

留学中

○大学での授業

留学を通して受講した授業

- ・ MKT381 International Marketing
- ・ TIM101 Intro to Travel Industry Mgt
- ・ ASAN324 Chado-The Way of Tea Practicum Class
- ・ MGT345 Entrepreneurial Ventures
- ・ RE300 Principles of Real Estate
- ・ SUST204 Historical Ecology of Hawaii
- ・ TPSS120 Ornamental Plants

日本の大学の学年歴とは少し異なり、秋学期が8月～12月、春学期が1月～5月となっています。その中で自分の学びたい分野、授業を少し制限はありますが、様々な学部から横断的に選ぶことが出来ます。規模としては10人以下の授業から大教室での数十人の授業まで幅広く、中間や期末試験も日本の大学と同じくレポートやテスト、プレゼンテーションでの評価が多かったです。100、200代の授業は比較的1年生や2年生がメジャーを決める前の網羅的な

授業が多く、300代以上の授業は専攻を決め、卒業に向け各々興味のある分野の専門知識を深めるような授業が多いと感じました。

自分は中央大学国際経営学部での学びの延長線上であるMKT（マーケティング）、MGT（マネジメント）に加え、ハワイのみならず経済発展を遂げる世界各国で、観光業や不動産がその土地の環境、サステナビリティに大きく関係すると考え、TIM（観光ビジネス学部）、RE（不動産）も受講しました。また、留学の目的である環境学もSUST（サステナビリティ）、TPSS（熱帯植物・土壌学）の受講を通し学びを深めました。

留学中に受講した中で印象深い科目を2つ紹介させていただきます。

一つ目は、SUST204 Historical Ecology of Hawaiiです。ハワイが現在直面している環境問題を十分に理解し、それらに対処するためのハワイ諸島の歴史的な生態学を学ぶ授業です。人間の経済活動とそれによって変化をせざるを得なかったハワイの自然の融合の歴史を学びます。授業形態としてはレクチャースタイルで、学期中3回のライティングテストで評価が決まります。このクラスを受講する学生は、環境への意識が高い方、ボランティアをしている方、ハワイが生まれ育ちの方が多かった為、当事者意識を持った議論がなされ面白かったです。

二つ目は、MGT345 Entrepreneurial Venturesです。競争市場におけるビジネス戦略や財務計画、新規事業のための資金調達先等を踏まえたビジネスプランを再現する授業です。この授業の生徒数は8人のみで、教授は起業家にコーチングする事業を行っている実務家です。授業としては、2週間に一回3時間ほどの授業の中で生徒とのディスカッション、教授との個別のディスカッションを通して、少しずつビジネスプランを完成させていき、期末試験として生徒全員の前で1分間のピッチを行います。ビジネスプランを作成する上での思考力は日本の大学生も同程度の能力だと感じましたが、ピッチ（ビジネスプランのプレゼンテーション）の部分で大きな差を感じました。アメリカ人の表現力の豊かさに倣い、自分の持つポテンシャルを最大限に露出できるよう練習を重ねたいと思いました。

○調査について

留学前の目標として「持続可能な社会を目指すハワイ州における街づくりを経営学の側面から調査」の予定でしたが、ゼミの教授と調査内容についての協議を重ねていく中で、「人々のゴミのポイ捨てに関する意識は街の景観に応じて変化するのではないかという仮説の上で、人々へのインタビュー調査やゴミ箱の設置状況等を現地調査する」という方向へ変更しました。

卒業論文として執筆予定ですので調査結果の詳細を公開する事はできませんが、景観が清潔な街であればあるほどポイ捨てを抑制する意識が出てくる。逆に、景観が清潔でなければいほど、ポイ捨てを抑制する意識が低くなるという結果が大まかではありますがインタビュー調査で明らかになりました。

○生活面

留学中は University of Hawaii at Manoa が斡旋する寮やアパートメントがあり、それらに申し込みを行いました。しかし、自分を含んだ中央大学からの交換留学生 3 人全員が落選してしまい、各自手配を行いました。

自分が選んだ寮は、学校とビーチへバスで 15 分ほど、スーパーへは徒歩 5 分ほどの好立地にあり、道を挟んだ正面に教会、病院があったので比較的治安の面では安心して過ごす事が出来ました。

寮には、現地人・欧米・アジア圏と幅広い国籍の学生が住んでおり、様々な言語・文化・郷土料理が入り混じる環境でした。日本で長く暮らしていると、日本人としての言語・文化・食事に固執してしまいがちですが、アメリカという多民族国家で過ごす中で、ヨーロッパ・中南米・アジア等に多様なバックグラウンドを持っている学生が多い事にまず気付きました。そして、そのような環境で生まれ育ったからこそ他の言語・文化・食事に興味を持ち、学びに積極的である事や、異文化に寛容なのだと感じました。

実際、寮でご飯を食べながらアメリカ国籍の友達にスペイン語を教えてもらったり、タヒチ国籍の友達からはフランス語を教えてもらったり、逆に私は日本語を教えてあげたりしました。

食事の点では、寮の学生やその友達が集うバーベキューパーティーを月 1 程度で行い、各自自分の慣れ親しんだ料理を持ち寄り紹介し合ったりしました。自分は日本の食材が売られているスーパーで購入したお茶漬や大福を持っていきました。

また土日など休みの日には、ハイキングに行ったり、ビーチに行ったり、サーフィンをしに行ったり比較的自然の中で過ごす機会が多かったです。留学当時ハワイ唯一の公共交通機関（現在はモノレールが運行中）であるバスで大体の場所に行くことが出来ます。University of Hawaii at Manoa の学生であればバスを無料で乗車できたり、美術館等も無料で入れるので積極的に活用しました。日本では時間通りにバスが来るのが当たり前ですが、あくまでハワイも

アメリカ合衆国の一部です。バスが時間になっても来なかったり、全く行先が違うバスが来たりすることもあるので注意が必要です。



寮でのバーベキューの様子

留学統括

一言で表すと大小様々な気づきが得れました。人それぞれ感じ方は違うと思いますが、学業面でもプライベートでも何かしらの気づきがあると思います。

勿論留学を通して英語力も向上しましたが、極論留学をせず日本にいても語学力向上は可能だと思います。留学地で会う様々なバックグラウンドを持った人々と関わる中で感じる気づきは留学という選択肢が最も得れると思います。人々の衛生面への意識や環境への意識、政治への意識など日本の外に実際に出てみないと分からない物事を国際感覚として養えました。また、その気づきから新たに自分の興味・関心がある事、価値観等が形成されると思います。

これから留学をする方や、留学を考えている方、人やインターネットを頼れば、何か起こっても最悪何とかできます。なのでそれほど気負いせず、やりたい事に素直に向き合ってみてください。その中で新しく楽しいと思える事、興味を持てる事を見つけてみてください。